

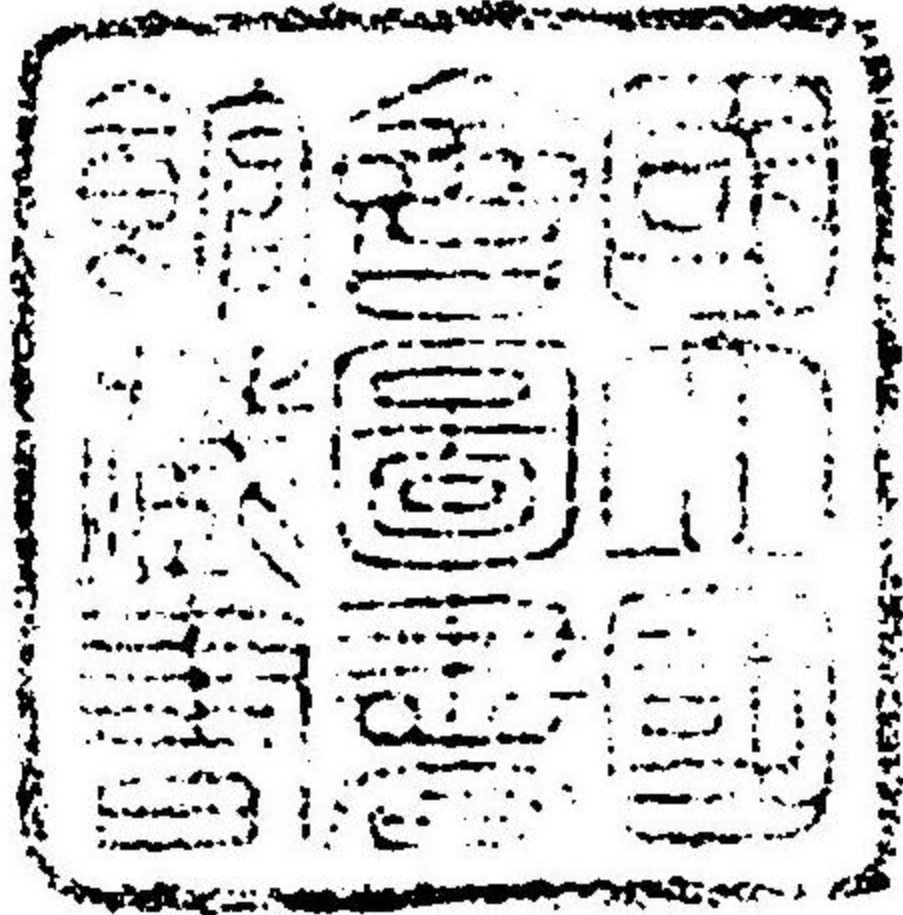
殉難遺草

完
三

911.157

Z53_z

W_t



国立国会
25.3.31
図書館

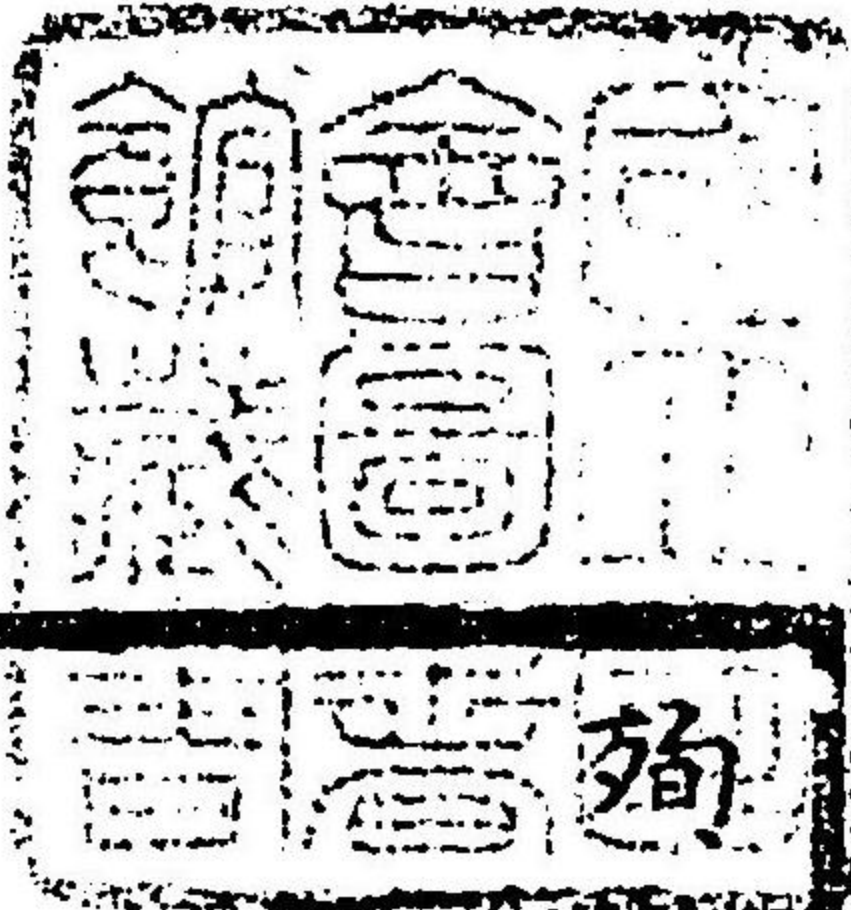
112453

自序



鳥江文庫

殉國之士慷慨悲憤之氣と、
 不世其節操を編忠義之情通於人
 然るに視察之道其大哉無と、
 難小其吟詠を録し、
 世に流布し、
 其後於其素の志を
 其輔にあらざる之知る者少く、
 其情を士名を



難遺草

目錄

- 梁川 緯
- 小林 良典
- 淳田 可為
- 飯田 忠彦
- 堀 利賢
- 河野 通桓
- 大橋 周道
- 藤森 淳風

字公圖号皇嚴真逸通称新十郎濃洲産京住
安政五戊午年九月二日病死七十七

鷹司家世臣從五位下民部権太輔
同六年未八月遠島同十月十九日病死

姓豊臣氏称内藏丞号一蕙又瑞草京師住
同年十月十四日病死六十八

有攝川官世臣称尤馬
万延元年五月廿七日於城及深州村自盡
織部正号有梅又梅花散人

字士威号春雲称顯三
变名三島三郎

字正順号訥庵称順造

号天山称恭助古賀精里隨從
坂下事件嫌疑入獄赦免後病死

高きみしとて
 王の勅も志より出さばありき
 赤きしは海の深きも世乃は海の
 中より武雄も海へしとて終る事
 海へしとて

泰山
 慨程子

人見 某

姓得能氏号淡雲大洲藩家石黒簡谷
同車於江府幽囚中戊八月六日病死

横田 祈綱

称藤四郎真岡藩
同上

同 昌綱

称藤太郎祈綱美子
文久二戊年六月七日於國中病死

小山 弘

称豊春号香山狂夫
同車於八月廿七日故還

橋口 某

称壯輔薩藩
文久二戊年四月廿三日於伏見駅關死

藤本 真金

名鐵石称津之助

同 松本 衡

称謙三郎

同 吉村 重郷

称貞太郎

船越 某

称德藏徳山藩

南 某

同三庚年三月 日於京師横死
称八郎長藩但州録山義奉徒本名川上弥一
同年十月十四日於妙見山屠腹

再出 戸原 継明

字公實称卯橋筑前秋月藩
同上

再出 多田 某

称弥太郎

同 三玉 安麿

称三平本名高橋勇次郎

飯田 某

称筒平号連本堂備前脱藩
元治元子年正月十五日於京師横死

再出 澁谷 寛行

称伊豫作

宮部 増實

称昂藏肥後脱藩

松尾 則信

同年六月五日於京師三条巷横死
称甲之進主別脱藩

再出 久坂 通武

同上
称義助

同 半田 成久

称致吉

福谷 好長

姓多々良氏称林兵衛徳山藩
同年七月十九日於京師戦死

再出 平野國臣 称治郎

同 横田精之 称友治郎

再出 伊藤祐之 称龍太郎丹及人愈容銀山徒於京師幽囚中病死

再出 宮城御楯 称彦助

佐藤 某 称市郎長藩於京師幽囚中同年七月廿日断頭

真田直正 称半之助武及人疏波義奉徒同年九月 日於江戸屠腹

武藤 某 称道之輔水戸藩御師為官本某復讐之臣死前徒同年同月 日於常陸鹿島若松被屠腹

猿田 某 称忠夫鹿島ノ洞官前同徒同年同月 日於中川港戦死

松本 某 称棟栄守都官藩前同徒同年同月廿四日戦死

中村一智 称太郎駿及田中脱藩前同徒同年十月三日於常陸及鹿島浦門死

再出 塙 重義 称又三郎

大山 某 称平次即水戸藩前同徒同年同月廿日於中川港刑死

是枝貞至 称柳右門薩藩伏見上登徒同年同月廿日於屋久嶋幽囚中病死

再出 國司朝相 称信濃

同 兵戸真徹 称左馬介

再出 僧 赤城 野及芦尾山別當大願寺住持波山徒同年十二月 日於江及木ノ本辺鬪死

武田正生 称耕雲奇号如雲

同 藤田 信 称小四郎号先憂樓又小野斌雄

山國 某 称喜八即水戸藩慶應元丑年二月四日於越前敦賀刑死十五

東 櫻男 接及生玉社司於江府嫌疑幽囚中病死

僧 胤康

日及延岡慈眼寺住持於京師禁國中
同二年四月十七日卒死四十六

千屋孝成

称金作土藩御治郎寺健実
同三年辛丑月 日於因州横死

松井正道

称龍造水戸藩
同七年七月十日於京師横死

千葉良胤

称監物野及人妻名毛内右之助
同十年十月十八日夜於京師七條巷横死

村井政禮

修理少進号群玉堂或華冠子

篠崎友明

称勘七薩藩

三枝真洞

明治元年正月三日於洛南竹田横死
称菊三右市川静三即初和判義孝徒

村上某

称荷汀越後人藤本鐵石門人
同六年六月十四日於本國鳥會藩屏腹

蒲生秀實

称君平姓藤原氏野及人
為旧幕嫌疑下獄後病死

高山正之

称彦九郎上及人
同上

追加

同

殉難遺草

梁川公圖

辞世

詩文者星嚴詩集同遺稿
既土木成而流布故畧之

わが身をけりては 終るいのちをいかに

そよよとわがいのちをいかに

小林民部權太輔良典

述懐

わが身のけりては 終るいのちをいかに

そよよとわがいのちをいかに

わが身のけりては 終るいのちをいかに

たるときすく男の儂し
獄中より日下於信政へ奉ふ

清いつく船のゆく清を去る浪の

舟ふけは浦へ去や来ぬるを

淳田一蕙可為

人といふ百万るは葉山より那

飯田九馬忠彦

そし死の大運人のしるす

ほくきり山をりほくしきう

鳥解玉の昔ハ五と弱め

やとらきくあまの春なま

海を村へ送過のとき

憂とらふ海舟の中は

しと海舟ふまうしをせん

堀織部正利賢

庚申春晚

竹暗不通日泉聲落如雨春風自有故

桃李乱深塢

箱館港

鮑鯨乾枯歸篋中御神洋上舶西東

疆喧三日好天氣
卜得滿帆山脊風

河野頭三通桓

壬戌元旦

生來兩度決必死
二十五午又迎春
丹心一片斃不已
再生又掃犬羊塵

大橋頃藏周道

五胡猖獗國將傾
肉食猶言真太平
尤怪謝安出山後
更無倚略及蒼生

題櫻田斬奸

電發既看衆忽倒
淋離血滴雪如華

子房博浪真迂拙
徒雇他人推副車

無題

武生講文亦風流
閣腕時磨八尺鋒
近日洋夷猖獗甚
神州此氣果知否

君辱臣死是此時
狼眼虎額來相窺
廟堂一日苟安計
八萬陣中無男兒

○

白痴相卒慕腥膻
較看下民欲祀奸
剝滅妖氛果何日
慨然撫劍聞蒼天

偶成

世事如低棋、著著在人後、寄言當局者、
一敗將誰咎、勝算爭一先、天下無敵手、

亡豕補其牢、雖拙未為過、失火賞爛頭、
識者咎他惰、補過要其早、悔遲悔無奈、

雜詩

容至論時世、老氣死灰燃、方盡問奇酒、
又拋諛墓錢、嬌花憐失意、高柳感衰年、

休笑名心在、把憂無奈天

天山肖像自贊

後天下之樂、而樂吾聞其語矣、未見
其人也、先天下之憂、而憂吾聞其語
矣、世豈無其人哉、贊曰

布衣憂國似陳亮、清議買禍似范滂、衆
皆笑其狂、獨曰今之時、何時吾怪人之
不狂、嗚呼是真可謂狂矣

臨終詞

撫枕無眼呼若何、關心東海晚來波

中宵起把離騷讀 自古詞人憾慨多

人見 淡雲

只合是非期百年 衲衣辭世亦聊然

迂儒多抱陳編老 壯士元羞瓦礫全

邊海風腥鯨鯢躍 帝國雲黑旆旗懸

男兒自有男兒志 一任惛懦呼大癩

あふらきー我大君の所ろろを

やうくやまゆきとあつと

横田藤太郎昌綱

まじく男もなまこ少種を志ありけり

あふらきー我大君の所ろろを

あふらきー我大君の所ろろを

あふらきー我大君の所ろろを

横田藤四郎新綱

あふらきー我大君の所ろろを

あふらきー我大君の所ろろを

あふらきー我大君の所ろろを

あふらきー我大君の所ろろを

小山 毅春

獄中病後

草身一自獄中下 疫病死生唯任天
縱過妻兒離別苦 聖恩難已三千年

橋口 壯輔

ハ幡山をふりかへりて

✓ 空の御世をむくふかきん

ゆりあふらとけりも たけしやよ

藤本津之助真金

皇矣神器在終天帝基安誰背日神救
贛成盜賊奸快哉公大筆荒々鬼膽寒

○

水竹三分地 僅容間容 雲林咫尺 天時
落氣香

十は川の端より 湯きとるあゆと

おもしろい ところなる 湯きとるあゆと

か茂の御社よ 行幸よしとるあゆと

✓ 湯きとるあゆと 湯きとるあゆと

か茂の御社よ 行幸よしとるあゆと

松本謙三郎 衛

上城山

鐘秀東南極 此間志有靈 莫忘留荒跡

潭氣帶龍腥、塚平人聲去、林深日色青、
欲題名字者、咫尺霧冥々、

無題

金言一々誦無忘 壯夫兒曹免面墻
尤武右文經濟要 儼然開卷最初章

十好川にて討死しき時

✓ 吾はく見余しと記と 昔の人
うづりつきとよみものまじり

吉村寅太郎重郷

くもりあき 月とるふのひ さらふふ

あすはうらもこのよしーるゆ

かゝるんうきく ともくあう

ともかー きふれ重井あう

船越徳藏精勇

大内山を坂のゆる 船りうけ

えくあくてせ 非のまうくお

南 八郎

穢海より 美をおるけえたふ士

おれ ちのりをもよそふん ちん

戸原卯橋継明

因中雜吟

秋中銳寒三尺刀 滔天妖霧奈難消
從今一死爲河嶽 正氣千秋護本朝

讀和氣清曆傳

在長洲時作

通之在於天地也、洪水不能蕩之、猛火
不能焚之、亘千萬世、未嘗一日泯滅也、
然而通不能自行、必待人之扶持、輔相
而後綱紀立、彝倫叙、天地得其位、万物
得其所焉、天平景雲之際、女主在上、妖
僧乘軸、佞人誣神、獻諛言以逢上旨、將

天地易位、人道墜地也、夫我朝之爲邦
也 二尊開國

皇夢一姓、日月之所照、臨萬古不易、縱
有暴賊、奸宄、未聞有覬覦

天位者、是我邦之所以卓越於寰宇也、
當此時、妖僧盡盛

天聽欲竊

神器、其議已決矣、而欲假

神敕以鎮定輿情、故臨發、妖僧厲聲、
以威之、嗚呼、日月之晦明、天地之否泰

將於_レ是乎判焉、而清曆守_レ正不曲、確乎
謹言解

皇妙之厄、破_レ妖僧之膽、於是尋倫乃叙
綱紀乃立矣、嗚呼其功偉哉、特怪當時
以_レ吉備真備之耆宿重望、曾不_二一言以
諫、不_レ唯不諫、又從而俯伏拜趨、颯然不
愧、獨何心也、

皇天皇神照臨在上、

神器之不可動、固勿論已、然使_レ清曆苟
偷_レ生曲言則安知

皇妙解_レ紐、不可復焉、而清曆捨生不顧
能明

皇朝之國體禪位事寢、使_レ宗社安_二於富
嶽、所謂志士仁人殺身以成_レ仁舍_レ生而
取_レ義者、清曆在矣、嗚呼、方今洋夷猖獗
舉_二三千年明淨之土、守_レ將_レ變_二為腥羶被
髮之區、

皇運之厄極矣、天下有志之士其可不
出_レ死力以救_レ之、如_レ清曆之於_レ神護景雲
之朝乎、

捧公長春より厚くはなれりまの志を

はくまのすゑを せりくこちくさる

ひきうらうきせぬ 淺川 多郎

剛毅木訥近於仁の志と

人の目よりすゑをなす花を 咲かす

とぞふあがぬ 谷くけのまじり

所欲有甚於生とふ心と

まじりいはれりまの志を 咲かす

谷名のすゑを 咲かす

多田 彌太郎

憶楠公赤坂敗軍有感

休將一跌議英雄 大計要須觀始終

應詔笠山輕一諾 揚旗赤坂表孤忠

未知重功名盛寸 見當時志業空憶

起 天皇南木夢 北溟姑附渺茫中

三玉三平安磨

無題

時節誰能好子房 瀟城既是蜀山行

千秋一日芙蓉雪 片手掬東同社郎

小く山に花のつらハ 咲かす

所喜ハくく年をくははる

飯田簡平

了地ふ昔久のうわする昔うわはる

あつめわいさきけさふはる

澁谷伊豫作寛行

十は川を捨るまうまう

あつめわいさきけさふはる

意をきき井ふはるあつめわい

官部鼎藏増實

順徳天皇ノ山陵ニテ

陪臣執命奈無恙 天日喪光沈北阪

遺恨千年又何極 一刀不断賊人頭

松尾甲之進則信

久くはるうりなまの秋 あつめわい

あつめわい 月後の神

久坂義助通武

無題

去年海内乱如麻 生死不期詎憶家

此夕蕭條無限恨 山堂春雨聽鳴蛙

あつめわい 血ふなくあつめわい

月よりおふ知る人々美

半田紋吉成久

あつめいよあつめいよ武まの
あつめいよあつめいよ武まの

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

福谷林兵衛好長

辞世

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

平野治郎國臣

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

あつめいよあつめいよ

わが世にのちや人おまへさま
獄吏の梅乃一枝も折てえせぬ
梅の系もつとふんきやうも
あつちのちもあつちのちも

横田友治郎精之

あつちのちもあつちのちも

うやうやうのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

伊藤龍太郎祐之

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

官城彦助御指

日光山

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

あつちのちもあつちのちも

あつまれゝまむけてゝあつん

佐藤市郎

よーりゝをゆゝゝいんせれかの
人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

真田半之助直正

おのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

武藤道之輔

速懷

幾歳執戈淚不收 春風蔽驛志初酬

未乾腰劍仇頭血 要鑿金川雪國讐

猿田忠夫

決然去國望天涯 生別兼至死別情
弟妹不知阿兄志 慇懃惹袖問歸期

松本柳榮

辞世

あつゝゝちあゝゝゝゝゝゝゝ
あつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中村太郎一智

速懷

愁未無酒欲眠難 起出書堂星象殘
猶有練兵籌海容 滿城明月角聲寒

題鬪艦圖

月冷鬪艦白如霜 人間得失夢一場
微軀早晚殉家國 留取丹心護君王

塙 又三郎重義

幾九ひの都のこゝろをよみまへし
狩野のりしき 若乃上 一那

寄横濱志

こゝろをよみまへし 若乃上 一那

こゝろをよみまへし 若乃上 一那

大山平治郎

述懐

ちよひのこゝろをよみまへし 若乃上 一那

是枝柳右門貞至

ちよひのこゝろをよみまへし 若乃上 一那
ちよひのこゝろをよみまへし 若乃上 一那
ちよひのこゝろをよみまへし 若乃上 一那
ちよひのこゝろをよみまへし 若乃上 一那

ひさしひのき井のふとふ幾日
たぐハ沖 階のきふふく
一さつりあふふは乃ささく
あふらひのふふふふふふふ

嵐山海鏡

はくくふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふ

國司信濃朝相

ふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

兵戸左馬助真徹

渡船素のま

あふふふふふふふふ
あふふふふふふふふ

僧 赤城

あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...

武田伊賀守正生

無題

涯山妖血汗乘興 禮樂衣冠掃地虛
却怪文章經學士 不知果是讀何書

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

藤田小四郎信

無題

鐵衣鞍馬出御關 霞水筑峯幾往還

一車不成秋既老 凄然垂淚望家山

あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...

山國兵部

辞世

いづれにても 其古は名とめらるる

東 櫻 男

天をまへて かくるる思ふは 是れは

我れは 福のふかき かくるる

いづれにても かくるるは かくるる

いづれにても かくるるは かくるる

僧 胤 康

救はれぬ身は ありとも かくるる

いづれにても かくるるは かくるる

十屋金作孝成

欲安民而却不成死爲神攘夷以可安
宸襟也

いづれにても かくるるは かくるる

いづれにても かくるるは かくるる

松井龍藏正道

いづれにても かくるるは かくるる

いづれにても かくるるは かくるる

天はみまへ かくるるは かくるる

千葉監物良胤

うさし 遊のわらひまゝ 旅多きハ
ゆきまは 多きと かのいともふりき

村井修理少進政禮

獄中述懐

攘夷大策仰皇猷 常苦奸臣誤遠謀
三十三年懷志操 七旬五日雜俘囚
英雄心事生來定 男子功名死不休
今日試提世間是 茫茫雲霧塞神州
獄中苦寒 癡鼻黃昏坐 獄奴未點燈 寒風時透骨

干以九月朔逮獄到十月望日
時七十五日

衣袂冷干冰

似獄中諸友

相逢獄裡好因緣 一見談心旧識然
他日中原重糾約 揮鞭馬上話當年

蛛網

似學機工手絲々巧織成 閉軒風雨後
辛苦幾經營

月前落花

あけくさ 花木の春志あらく たけさるうた
ちととも みえぬとわら月お

月夜草花

あすききよきあはれまふおきもなく

まゆりくはにー 秋夜をかく

子あ月せり雪の澄みききと

月あけいもちいよのあけきよの増きとや

みんあ 大崎ふきと清くき

不知歌

天はりれ神のしりりおきき来た

あきいふたきー 大和たきーあ

つらうかくあふふらなりー 君のしり

あふらひらりあききーあのか

篠崎勘七友明

辞世

あふられ持るいのちのたきいり

たうふきと海へあきーあきき

三枝 翁真洞

捕公

あふあきいりうきりとものかねい

あのはりり井のあのおれう

成山先生とあきい

あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて

歌

あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて

村上荷汀

辞世

あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて

蒲生君平秀實

遊會津有感

廟古悲風對落輝 白揚蕭索葉初飛
山川顧望萬封地 淚下關東一布衣
比叡のふみおろするそあつちあつち
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて

高山彦九郎正之

あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて
あつちあつちの所々のなりけりよ強ひて

明治二年己巳四月
官許

城兼文輯
有節錄
初篇
開板全

同
同二編
嗣刻
全

同
殉難續草
同
全

同
同名薄集
同
全